

大阪大学外国語学部外国語学科ポルトガル語専攻 海外留学と「草の根」の国際交流

平田 恵津子*



海外交流

Portuguese Language Program, School of Foreign Studies, Osaka University

Key Words : Study Abroad, “Grassroots” International Exchanges

はじめに

大阪大学外国語学部外国語学科ポルトガル語専攻は、1979年、大阪外国語大学に設置されたポルトガル・ブラジル語学科を前身とし、今年、40周年を迎える。1921年に創設された官立の大阪外国語学校をルーツとする外国語学部のなかでは「若い」専攻語ではあるが、設置以来、今日に至るまで、学部の教育理念にのっとりポルトガル語とそれを基底とするポルトガル語圏の文化一般について教授研究を行ってきた。

本稿ではこのポルトガル語専攻で学ぶ学生たちが在学中、積極的、かつ、能動的に国際交流を行っている様子を紹介したい。

1. 海外留学を志す学生たち

外国語学部の学生は概して海外志向が強い。海に向こうに広がる世界に強い関心を持つ若者たちが「外国語」の名を冠する学部が集まってくるのは当然のことと言えようが、実際、多くの学生が在学中に半年以上の長期留学を志す。ポルトガル語専攻の学生もその例にもれず、通常、3年次の春～夏学期、あるいは、秋～冬学期が終了すると、半数以上、多いときは8割から9割の学生がそれぞれ希望の留学先へと旅立っていく。英語圏の大学や語学学校へ留学する学生もいるが、主な留学先はポルトガル、また

は、ブラジルの大学である。

学生たちは主に2通りの方法で留学を実現させる。学術交流協定締結校との交換留学の制度を利用する方法と、協定校以外の大学に自らコンタクトをとり、自力で手続きして留学する方法である。

まず、前者についてであるが、大阪大学は海外の多くの大学との間で大学間交流や部局間交流の学術交流協定を結んでおり、そのなかには大阪大学に在籍したまま海外留学し、留学先の協定校で、科目履修や研究指導を受けることが可能になるところがある。ポルトガル語圏では、ブラジルのサンパウロ州にあるサンパウロ大学と同じくカンピナス大学、リオ・デ・ジャネイロ州にあるフルミネンセ連邦大学がそれに該当する。

ブラジル最大規模の名門総合大学で、歴代の大統領や文化人を数多く輩出してきたサンパウロ大学については、以前より、留学希望者がいたが、交流協定のないことがその実現を阻んでいた。ところが、2008年、ブラジル日本移民100周年記念事業の一環として、大阪大学とサンパウロ大学の共同企画で国際シンポジウムが開催されたことが後押しして、その翌年、大学間協定が締結され、本専攻の学生の留学が可能となった。

サンパウロ大学と並び、ブラジル国内で最も優れた高等教育機関のひとつとして広く認められているカンピナス大学は、大阪外国語大学時代から長年にわたって本専攻の学生を多数受け入れており、教員間の個人的交流もあったものの、協定は結んでいなかった。しかし、今後も安定的で発展的な交流を継続していくために、2017年、大学間協定が締結された。

同じく2017年、本学外国語学部は国立のフルミネンセ連邦大学と学部間協定を締結した。グアナバラ湾をはさんでリオ・デ・ジャネイロ市の対岸にあ



* Etsuko HIRATA

1960年8月生まれ
University of California, Los Angeles, Dept.
of Spanish and Portuguese, C.Phil. degree
(博士後期課程単位満期退学に相当)
現在、大阪大学 言語文化研究科 言語
社会専攻 教授 C.Phil. degree (UCLA)
ブラジル文学
TEL : 072-730-5273 (研究室直通)
FAX : 072-730-5273
E-mail : ehirata@lang.osaka-u.ac.jp

るニテロイ市にメインキャンパスを構えるこの大学と協定を結ぶきっかけをつくったのは、学生たちの「リオ・デ・ジャネイロの大学で学びたい」という願いと行動であった。協定締結に先立つ2015年、ひとりの学生がリオ・デ・ジャネイロにある複数の公立大学に宛てて、留学の希望をつづったメールを送り、受け入れてくれたのがフルミネンセ連邦大学であった。そして、その学生の後を追うように複数の学生がこの大学へ留学をしたため、先方より協定締結の打診があり、2017年の締結へと至ったのである。学生の積極性や行動力が新たな協定校を開拓した例のひとつとなっている。

以上の3大学とは異なる大学、つまり、協定校以外の大学に留学を希望する学生も多い。とりわけ、近年、ポルトガルへの留学を希望する学生が増えているが、ポルトガルに大阪大学の協定校はないため、学生が自ら留学準備を整えることになる。相手校への問い合わせに始まり、留学ビザを取得して渡航するまでの一連の手続きはなかなか厄介なものであるが、彼らはそれをいとわず、希望する大学への留学をめざす。ポルトガル語専攻の教員はもちろん協力を惜しまない。

ポルトガルの大学で本専攻の学生を受け入れてきたのは主にリスボン大学とコインブラ大学である。いずれも古い歴史と由緒あるポルトガル屈指の名門大学で、留学生向けに整備された教育プログラムを提供しており、世界各地から留学生が集まる。ヨーロッパ最古の大学のひとつであるコインブラ大学は、2013年、大学の建造物群を主な対象とする「コインブラ大学ーアルタ地区とソフィア通り」がユネスコによって世界文化遺産として登録されたこともあって、学生たちに人気の留学先となっている。

複数の国に留学を希望する学生も少なくない。ブラジルにもポルトガルにも暮らしてみたいと半年ずつそれぞれの国の大学に留学する学生がいたら、ポルトガル語だけではなく英語も上達させたいと、自分で選んだアメリカの語学学校で半年間英語を学んでから、さらに半年間、ブラジルの大学へ留学した学生もいる。

留学のきっかけや目的はさまざまであるが、彼らに共通しているのは旺盛な好奇心である。自分が学んでいる言語を使って現地の人と交流したい、教室のなかで学んだことを現地で実感したい、異文化や

価値観の違いを肌で感じたい、といった強い思いが彼らを留学へと駆り立てる。2016年リオデジャネイロオリンピックの開催時期に合わせて留学し、現地でボランティア活動を行った学生がいたら、現地の大学で専門分野の学習に熱心に取り組んで、卒業論文のテーマを探したり、日本では入手が難しい論文などの資料集めに努めたりする学生もいる。留学の主な目的のひとつとして常にあげられる語学力の向上は、彼らが現地でさまざまな活動に積極的に従事することによって自然と達成されるむしろ「副産物」のようなものである。

学生たちの「草の根交流」

外国語学部の学生の国際交流の場は海外留学に限らない。大阪大学で学ぶために世界各地から集まってきた留学生との交流をとおして、学んでいる言語での会話力を試したり、異文化を体験したりする。

ポルトガル語を学ぶ学生たちにとって、そのような交流の場となっているのが「カフェ・コン・レイテ」(ポルトガル語でミルク入りコーヒーの意)である。本専攻の学生とブラジル人留学生の友達の輪が広がって、自然発生的に生まれたこの会を、いつ誰が始めたか正確なことはわからないが、Facebookで知ることができる活動の様子や、参加学生たちの話からは、彼らが豊中キャンパスや箕面キャンパスで集まって、ゲームをしたり、会話を楽しんだり、一緒に料理を作ったりして交流する様子が伝わってくる。月に2回集まることがあれば、数カ月に1回しか集まらないこともあるらしい。固定のメンバーがいるわけではなく、会って話がしたい、一緒に何かしたいと思えば、それぞれ友達を誘い合って集まるという形での交流が、すでに数年間、継続して行われている。

また、偶然にも、この原稿を執筆している最中に、ポルトガルの大学に留学中の学生からメールで、昨年11月、ポルトガルやブラジルの大学に留学している日本人学生たちが集まって、ポルトガル語やポルトガル語圏の国・地域の魅力を伝えるために団体を立ち上げたとの知らせが届いた。日本でポルトガル語を専攻として学べる6大学の学生約60名がメンバーとのことで、ホームページを立ち上げ、TwitterやFacebook、Instagramを活用して、ポルトガル語圏の留学情報などを発信しているそうだ。

今年秋にはフリーペーパーの発行をめざし、その資金調達のためクラウドファンディングを利用したプロジェクトを行っているそうだ。学生たちのフットワークのよさと行動力にはいつも驚かされる。

これらの団体が長きにわたって活動を継続できるかどうかはわからない。しかし、仮に継続しなかったとしても、今後、同じような志をもつ学生たちが同じような団体を立ち上げ、同じように交流や情報発信を行うであろうことは容易に想像できる。

おわりに

日本における若者の「内向き志向」が言われるよ

うになって久しい。インターネットの普及によって、家にいながらにして世界と簡単に「つながり」、海外に出かけずともさまざまな風景や事物を「見たり」、「知ったり」することができる。だが海外留学や国内での国際交流で得られることは多く、ほかの何物にも代えがたい経験を積ませてくれる。異なる文化や価値観を持つ人たちとの出会いやコミュニケーションは自分自身を見つめ直すきっかけにもなる。本専攻の学生に限らず外国語学部の学生たちは、柔軟な発想と行動力で世界と積極的につながり、そこで得た情報を共有し発信しようとする。何とも頼もしく思う。

